KSKS

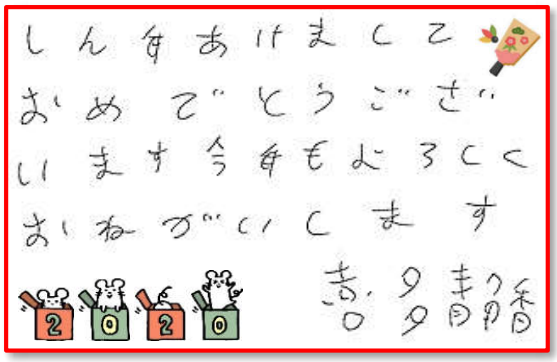
花の会ニュース

２０２０年１月号
no.183

編集人／ 社会福祉法人 花の会　広報委員会 連絡先／ 〒569-1042 高槻市南平台 3-29-9
TEL 072-692-2859　FAX 072-693-3603
★WEB http://www.hananokai.info/　★E-mail hana-net@minos.ocn.ne.jp

２０００年１２月１２日第三種郵物承認　毎月（１・２・３・４・５・６・７・８の日）発行
発行人　関西障害者定期刊行物協会　大阪市天王寺区真田山町２-２　東興ビル４階　定価１００円

本年も
どうぞよろしく
お願いいたします。



みんなの会　喜多 静香さん

障害者差別をなくそう！
～障害があっても、なくても
みんなちがって、みんないっしょ～

手話とコーラス
第5回
街かどコンサート
のお知らせ

日　時 ： 2020年3月14日(土)
11：00 ～ 12：00

場　所 ： アクトアモーレ2階ステージ
(JR高槻駅北側・アクトドーム)

共　催 ： 社会福祉法人花の会
ミュージカルフレンズ

♪皆様のご来場を
お待ちしています♪

「デザイン」を考える

正月にテレビを見ていて、デザインについて特集する番組があった。服飾や商品のデザインの話かと思いきや、「概念」の話であった。うまく整理出来ないが、モノのデザインは能動的なのだと感じた。また、その世の中の考え方と深く結びついていることも知った。新たなデザインは、従来の概念（考え）を大きく変えることから生まれるということも言われていた。当然の話で、建物や制度に拡大していくと、どのようになるのかとの興味が湧いた。今の社会は、障害者をどのような社会の一部としてデザイン（意識）しているのか、という思いが浮かんだ。

ユニバーサルデザインやバリアフリーを想定すると、今の世の中、なかなか、やるではないか、となる。しかし、個々の日常の現実は、障害者に対する人の対応は、支援者も例外なく社会の「埒外」に置くことが常態化している。これを打ち破るデザインとは、何であるのか、考えたい課題である。

昨年８月、立命館大学いばらきキャンパスで、日本職業リハビリテーション学会　大阪大会が開催され、参加の機会を得た。基礎講座が入門者に用意されていた。その中で、「研究の基礎　～質的研究から学ぶ～」というテーマで講座が組まれていて、新潟青陵大学の海老田大五郎氏がデザインについて解説されていた。まとめの一部を紹介すると『「デザイン」とは、プランよりも実践、あるいはマニュアル作成、マニュアル通りの支援ではなく「まずやってみること」というチャレンジ的な実践』『健常者間のみで共有されるような秩序とは別の秩序があると認めることが重要』・・・

さて、私たちはどのようなデザインを描いているのかが問題である。　（やまだのかかし）

日中活動支援の報告　生活介護・短期入所

ピープルファースト全国大会 in 大阪 に参加しました！

11月29日（金）・30日（土）の2日間、ピープルファースト全国大会 in 大阪（以下：ＰＦ全国大会 in 大阪）が大阪国際交流センターで開かれた。大会に参加するまでの準備期間、大会に参加するお金を集めるために、みんなの会から有志達が集まり、駅前で募金活動を行う等、大会参加に向けて動いた。29日の全体会には、みんなの会から代表やリーダー達が参加した。30 日は 14 のテーマに分かれた分科会があり、参加希望者のみが参加した。

全体会当日は会場に入ると既に始まっており、ちょうど第４共働舎花の会（チューリップ）の喜多さんが司会を行っていた。少し緊張した面持ちだったが、堂々とした様子で見事に司会を務めた。会場には、全国から約 1,000 人が集まり、ステージで自分たちの思いを発表していた。参加したメンバーは、それぞれ真剣な表情でその話に耳を傾けており、「花の会のメンバーの司会を見られてよかった」「韓国の人が来てくれてよかった」等の感想が聞かれた。また福祉に携わっている者、我々職員も、当事者の方々と一緒に、この世の中へ現状を示すために声を挙げていかなければならないことを目の当たりした。改めて、この大会の意義を理解したように思う。

（共働舎花の会　日高　和也）

PF 全国大会 in 大阪 分科会「ファッションショー」に参加しました！

11 月 30 日（土）、分科会の「ファッションショー」にメンバー３名と一緒と出掛けました。

「東京ガールズコレクション」をご存じですか？私は全く知らなかったのですが、どうやらそれを真似て「ファッションショー　大阪コレクション」を企画（企画：自立センター・どんどん）したようです。我々のような当日参加組の約半数を合わせた三十数名の当事者がミラーボールキラキラでノリノリ音楽の中、ポーズを決めながらレッドカーペットを歩きました。

まず受付で、参加する方は名前またはペンネームと今日のファッションポイントを書くよう紙を渡されました。「ん～、ファッションショーに出るとは思ってなかったもんねぇ。この辺のラインをポイントにする？」等、ファッションセンスゼロの私と相談しながら、メンバーは徐々に出る気満々になっていました。

本番は、緊張でロボット状態のメンバー、受け狙いでポーズをガンガン決めるメンバーの二極に分かれ、ショーの後はみんなでダンスを踊り、1 人ずつ記念写真を撮ってお開きとなりました。

♪ メンバーの感想 ♪

Ｓさん	めっちゃいろんな人がいて、韓国の人もいた。写真撮ったの、ちょっとうれしかった。絨毯の上をみんなで歩いたのが楽しかった。
Ｍさん	楽しかった。ファッションショー楽しかった。また行きたい。
Ｍさん	オッケーです！

（ラベンダー　弓場　律子）

第53回 花の会バザー を終えて

ご来場、ありがとうございました

秋とはいえ、日に日に気温が下がり、寒いのではないかという心配をよそに、とても気持ちのよい秋晴れの好天に恵まれ、閉店時刻が近づいてもお客さんの波が途絶えず、前回（春）のバザーのような閑散とした光景は一切なく、最後まで、買い物や模擬店で購入した食べ物を食べながら談笑するといった光景が絶えませんでした。

そのお陰もあって、総額２００万円を超える売上（バザー協力金を含む）となりました。

さらに、今までなかなか終わりの目途が立たなかった前日準備・当日の片付けもスムーズに進み、個々の負担も大幅に軽減出来たことも嬉しい限りです。

ただ、スペースの問題で、メンバーによる「ホットケーキ」のコーナーが隅にあり、非常に場所が悪く売上も良くなかったという点がありました。模擬店等、場所によっては限られたスペースということもありますが、出来るだけ効率の良い配置が出来るように、そして来場頂く方の安全面も確保しながら進めていけるように、全体的に改善していかなければと思います。

（第２共働舎花の会　田中　弘樹）

避難訓練を実施しました！

12月３日に共働舎花の会、第２共働舎花の会、レスパイトで合同の避難訓練をしました。出火元は第２共働舎花の会の建物の２階、レスパイトの宿直室を想定しました。宿直室には電話がありますが、煙が立ち込め入ることが出来ません。ですから通報は走って伝えに行かなければならないのですが、通報する前から避難訓練を知っていて、施設の外に逃げ出しているメンバーもいました（笑）。毎年、年間４回ほど避難訓練を実施するので、流れもわかってきて比較的スムーズに避難が出来ています。けれども、実際に火事が起きた時にも同じように落ち着いてスムーズに避難出来るとは限らないです。耳を塞ぎたくなるような大きなベルの音が鳴り響きます！強い風が吹き込めば煙で前が見えなくなったり、息をするのが苦しくなったりするかもしれません！火の粉が飛んできてやけどするかもしれません！怖くて動けなくなるかもしれません！パニックを起こしてしまうかもしれません！職員だって同じことです。職員が冷静さを失えば、メンバーを守ることは不可能です。日頃の避難訓練でどんなことが起こりうるか想像をしながら、自分の中の“想定外”を１つずつ減らしていくことが大事ではないかと思います。

レスパイトでは、夜間避難訓練も１～２年に１回実施します。夜間だと、利用者も職員も怖さが増します。少しの段差や凸凹が怖くて、避難するスピードも遅くなります。職員も焦り、みんなを落ち着かせる言葉掛けが少なくなります。逆に言葉掛けがあると利用者への安心だけでなく、職員同士も落ち着いて冷静になれることを学べました。

東京消防庁では、照明を落とした暗闇で、震度６の揺れを再現した地震体験や、煙が充満した通路での避難等を体験出来る「防災体験ナイトツアー」というものがありますが、残念ながら大阪には無いようです。災害はいつ起こるかわかりません！かけがえのない命！一人も犠牲者を出さないようこれからも訓練に取り組んでいきます。

（レスパイト　廣橋　孝之）

コラム①

メンバーと共に築いてきた関係、これからも成長していける私たちに～

Ａさんとの出会いは、私が花の会に就職した時です。当時の私は、障害のある人と関わったことがほとんどないため、メンバーとどうコミュニケーションを取ればいいのか悩んでいました。Ａさんも自分から積極的にコミュニケーションを取るタイプではなかったため、挨拶をしたり一緒に作業をする中でＡさんのことを知り、私のことも知ってもらおうと考えました。時間が経つにつれ、Ａさんは「ともさん、おはよう」等と自分から声をかけてくれるようになり、グループホームで行われるＡさんの誕生日会にも招待してもらえるようになりました。

３年ほど同じ班で過ごした後、私とＡさんは別々の班になりました。ある日、グループホームの世話人から「Ａさんの誕生日会があるのですが、参加してもらえますか？Ａさんに誰を呼ぶかを尋ねると「ともさん」と言っているんです。」と連絡がありました。私は「喜んで出席します」と返答しました。私自身、まだまだ未熟で勉強していかなければいけないことは多くあります。Ａさんの気持ちを理解出来ず、一方的な関わりをしてしまったこともあったと思います。ただ、Ａさんに親しみを持ってもらえたのかと思い、その時はとても嬉しかったです。周りのワーカーとこの思いを共有しながら、メンバーの思いを考えられるワーカー、そしてメンバーと共に成長していける私たちでありたいと思います。

（共働舎花の会　渡邊　朋幸）

コラム②

日々のメンバー支援、振り返ってより良いものにしていきます！

１１月から１２月にかけて、学生の実習生が来ていました。最終日の挨拶を終えると、個人的に私の元に来た実習生。メンバーの様子で気になった点を聞きに来て、最後に「加美川さんのメンバーさんへの声掛けの仕方・関わり方が、とても勉強になりました。今後、加美川さんを見習って頑張りたいと思います。」と話していました。お世辞だったとしても、嬉し～と思える言葉でした。「いやぁ、そんなことないですよ。実習お疲れ様でした。」と返答したのですが、後々『私は、メンバーに対してどんな声かけをしていたのか。どんな関わり方をしていたのか。実習生の目にどう映っていたのか。』ということが気になり、あの時ちゃんと聞いておけばよかったな…と今になって少し後悔。

実習生と一緒に活動していた時のことを思い返しても、『〇〇さん（メンバー）が、あんなことをしていたなぁ。』というような場面ばかりで、自分のメンバーへの声掛けや関わり方が、なかなか思い出せませんでした。

実習生から見て、私のメンバー支援で実際に良かったと思う点もあったのかもしれないですし、反対に悪かった点もあったと思います。ですが、実習生の口から直接、悪かった点を言うのは厳しいものがありますよね。私も大学時代に、保育所・幼稚園・施設実習に行き『その声のかけ方や関わり方はどうなんだろう。』と思ったこともありましたが、言えなかったので、よくわかります（笑）。

この出来事を踏まえて、自分自身のメンバー支援を振り返った際に、良い点も悪い点も思い出せるように意識を持って支援していくことが出来ればいいなと思いました。

今回のコラムを書くことで、この出来事を振り返ることが出来、自分自身の課題を見つけることが出来たので、良い機会になりました！

（第２共働舎花の会　加美川 絢子）

児童支援の報告

３事業所合同　オータムキャンプ　野外交流会を開催しました！

「あじさいクラブ」、「さくらクラブ」、「あさがおクラブ」合同での初めての行事『第１回オータムキャンプ　野外交流会』を１０月２６日（土）、高槻市立摂津峡青少年キャンプ場で開催しました。

今回は「子どももご家族も職員も、野外で楽しく交流する」ことを目的に企画。とはいえ、初めてのことで、全て一からのスタート。「さあ、頑張るぞ！」と思っていましたが、場所はどこにするのか、何を作るのか、段取りは、等などクリアしなければならない問題は山積み・・。打ち合わせ、下見等を重ね、作り上げることになりました。準備の方は着々と。でもそう簡単に前には進みません。次は天候の問題が・・毎週末のように来る台風で当日はどうなることやら。前日は雨でしたが、願いが届いたのか、当日は曇りで、暑くも寒くもなく丁度いい気候の中、利用者、利用者ご家族、職員の総勢６７名で焼きそば、豚汁作りを楽しみました。

キャンプ場の方と一緒に火おこし体験も出来ました。前日の雨で薪が湿っていてなかなか火がつかない・・ということも、いい経験（笑）。みんなで作った豚汁、焼きそばはとてもおいしかったですね。中には「焼きそば３杯食べた！」という方もいました。

普段交流出来ない方と話が出来たり、ビンゴゲームで盛り上がったり、とても貴重な時間となりました。

ご参加下さった皆様、たくさんご協力頂きまして本当にありがとうございました。今年は予定が合わずに参加出来なかったという方もおられました。来年度も、開催出来ればと思っています（今回は”第１回”でした）が、どのような企画がいいのか、ご意見を頂きながら考えていきますので、よろしくお願い致します。　（あじさいクラブ　山下　由香）

第４回　合同懇談会（定例会）の報告

昨年１２月１４日（土）に「さくらクラブ」、２１日（土）に「あじさいクラブ」・「あさがおクラブ」の第４回合同懇談会（定例会）を実施しました。参加者数が少なく、ちょっぴり寂しかったのですが、事業所内での取り組み、学校やご家庭でのこと、児童部門の合同行事・オータムキャンプ交流会のこと等、活発な意見交換が出来ました。その中で、次年度開催予定の学習会の内容について話をする時間があったのですが、「学校をどう選んだらいいのか、またどのようなサポートが得られるのか」、「学校卒業後の進路について」等、将来に不安があり、いろいろ聞いてみたいと話される方が多かったのが印象的でした。また、同じ境遇、立場の人との交流する場が少ないという意見も多数寄せられました。

ご家族の方、それぞれ環境の違いにより、情報に触れる機会に差があるようにも感じました。事業所として少しでもご本人、ご家族の方のサポートが出来るように、また情報発信が出来るように考えてまいります。　（さくらクラブ：平田　昌史）

地域生活支援の報告　グループホーム

ピープルファースト全国大会　in 大阪
分科会　「グループホーム」　に参加しました！

今回、初めてピープルファーストに参加させて頂きました。全国から多くの当事者の方々が何日も前から準備をしている様子が分かり、とても励まされました。グループホームの分科会は主に４人の方が前で司会進行をしてくださいました。決して話すことが得意であるというわけではない方が、一生懸命大勢の人たちに話しかけて伝えようとしているのがとても嬉しかったです。言葉は聞き取りにくく、時には話の内容が変わってしまったりするのですが、当事者同士の中ではそのことは全く問題ではないということも大きな発見でした。参加した聴衆の人達も積極的に質問等を行っていて、とても活気のある時間を過ごしました。司会者達は、グループホームでの楽しい様子やいつもやっていることを答えてほしい様子でしたが、聴衆から、「本当にグループホームで自立出来るのか」、「作業所ではどんな仕事をしているのか」等の質問が飛び、司会者達は少し困った様子でした。それでも少しずつ丁寧に答えておられました。当事者の方々の中で特にまだホームを利用していない人の中には、グループホームが自立につながらないのではないかという不安を持っている人がいることを知り、グループホームの在り方や目標の立て方を考え直さないといけないと感じましたし、より一層、毎年の支援計画の目標の欄をご本人と一緒に決めていかないといけないと感じました。また逆にホームでの生活を私たちが心配する以上に、当事者さんが楽しんでいてくれているという面もわかりました。花の会からも、当事者スタッフでピープルファーストに参加出来る人を増やしていくにはどうしたらいいだろうと考えさせられました。これからも出来るだけ参加して、当事者と一緒に盛り上げたいと感じました。

（フラワーホーム世話人　酒井　宏）

クリスマス会を楽しみました！

年も明けて幾日も経ちますが、ホームのクリスマス会に参加させて頂きました。ホームの定例会でご家族からの発案で、行動は早く、宅配サービスや他のご家族にも呼びかけられ、当日はサンタ、トナカイも登場し、サンタとダンスしたり、メンバーはプレゼントをもらいました。当日、ホームは狭いリビングに人がごった返していましたが、メンバー、ご家族、世話人が一同に会して交流する機会は少なく、振り返ればよかったと思い返せました。ただ、楽しんでもらおうと実施した企画ですが、メンバーはどうだったのか、定着させてみたい行事なだけに、メンバーとどういうイベントにするか企画していくと尚よかったと反省しております。日誌で知りましたが、その他のホームでもケーキを食べ、各々が楽しい一夜を過ごせたようで、ほっこりしております。ご協力頂いた方々、ありがとうございました。

（フラワーホーム　徳野　裕季）

連載コーナー

こんにちは、世話人の 西井 です －２－

「癒し」「元気」を軸にした、気ままな自分発信コーナー♬

2020 年になりましたね。お題は、やはり「音楽」につながりました。今回もよろしくお付き合いください♪

昨年１１月の花の会バザーにグーダドラムを担ぎ参加しました。演奏出来る場所を探すのに四苦八苦するほどの大盛況でした。グーダの音がかき消されないように、第２共働舎花の会の入り口のベンチで演奏開始しました。通りがかるお客さん、メンバー、ワーカーに「きれいな音やね！」「癒される」「西井さんやったんや！」「それ何？叩かかして」等、新鮮でフレンドリーな反応、音への好奇心等、嬉しい反応をたくさん頂きました。法人公認の「花バンド」の水谷さんのカホンと共にセッションもしました。青空の下、楽譜の無い感覚（感性）と技の即興演奏は、とても楽しく笑みがこぼれました。「自分が得意なことで人が喜んでくれる。それが生活になったら素敵だよね」とチラっと思う瞬間です。（笑）

そう思い、年が明け１月中旬。「知的障害者援助専門員養成通信教育」という１年がかりの教育課程締めくくりのスクーリングに出向いた際、福岡県の福祉職員Ｙさんに声を掛けられました。「楽器なさるんですか？私、福岡の就労 B 型で演奏で就労している事業所（ミュージックアンサンブル JOY 倶楽部）で働いています」、年に２回の定期演奏会と、月に 40 本ほどの依頼演奏、時には韓国にも演奏に行くのだとか。Ｙさんは音楽療法士兼指揮者。「メンバーさんは『自分はプロ、音楽は仕事、練習は集中』と音楽が大好きで自覚があるので、その思いを叶えたい」。とても嬉しくなりハグをして「いつか大阪に」と言って連絡先を交換しました。

人様に有料で演奏を提供する。そのレベルの活動が出来ること。練習も指導も生半可ではないはずです。毎日練習し演奏技術を磨く「プロ」が集まった障害福祉事業音楽団体があることを知らなかった私には衝撃的でした。日本には和太鼓で音楽活動をしている就労 A の事業所も１団体あると言っていました。

音楽は海を渡るだけでなく、言葉や関わりと同様に人を元気にする力があり、必要な人に波紋のように広がる生きた物だと思いました。通信教育課程の辛いスクーリングが素敵な収穫の日になりました♪

今月の名言

■成るようにしか成らないし…
　成るように成るねん　（笑）

（Ｄ世話人）

（フラワーホーム　西井　嘉奈子）

就労相談支援の報告

ポップコーン作業を通じて感じたこと

「ワークたんぽぽ」の管理者の佐藤です。今回は、「ワークたんぽぽ」が生産活動で取り組んでいる『ポップコーン』の作業を通じて感じたことを、担当ワーカーの高橋さんに書いてもらいました。工賃向上を目指して 2017 年９月に、ポップコーン製造にチャレンジしました。地域のイベントにほぼ毎月出店することで、だいぶ定着してきたな、と実感しています。

では、ワーカーの高橋さんよろしくお願いします！

ポップコーン作業を担当しています高橋利恵です。製造して販売するという流れの中でたくさんの工程があります。準備、製造、片付け、納品、販売、イベント出店準備、試食品を配る等様々です。自分たちが一生懸命作ったものを自分たちで売って買ってもらえる。そして『美味しい』と言ってもらえる喜びが、メンバーのやる気や自信につながっていると感じています。ポップコーンで日々行っている作業を通して『出来た』（達成感）という経験を積んでいくことで、ポップコーン以外の作業やコミュニケーションにも良い影響が出ていると実感しています。メンバーと共にたくさん製造しますので皆さん買ってくださいね♪

（ワークたんぽぽ　佐藤 智昭　　高橋 利恵）

フォルツァ　支援と利用者満足度調査を実施しました

フォルツァは就労移行、自立訓練（生活訓練）通所・訪問、就労定着の３つのサービスを提供しています。スタッフが一番大切にしているのは「メンバーさんの気持ちを尊重する」です。

そんなフォルツァのメンバーさんにアンケートにご協力頂きました♪

Q1 好きなプログラム　第１位　自習（５票）
　第２位　軽作業・５リズム・ＳＳＴ（４票）
Q2 苦手なプログラム　第１位　軽作業（５票）
　第２位　ＳＳＴ・パソコン（４票）

Q3　フォルツァの設備（部屋の広さやトイレなど）				
とても良い	良い	普通	悪い	とても悪い
4	8	11	0	0

・トイレや部屋が清潔。
・１人机や面談室があるのは良い。
・通路やトイレ前などが狭い。

Q4　フォルツァの支援について				
とても良い	良い	普通	悪い	とても悪い
9	11	3	0	0

・スタッフが話を聞いてくれ、相談に乗ってくれ、一緒にどうしたらよいか考えてくれる。

Q5　フォルツァに通所して嬉しかったこと		
ある	ない	わからない
19	0	4

・能力を認められたこと。
・いろんな人と出会え、仲良くできたこと。
・パソコン検定に合格したこと。

Q6　フォルツァでやってみたいこと		
ある	ない	わからない
13	3	7

・ブログで作品を発表したい。
・釣りに行きたい。
・パソコンを頑張りたい。

Q7　フォルツァの雰囲気について				
とても良い	良い	普通	悪い	とても悪い
11	10	2	0	0

・メンバーさんもスタッフも、明るく優しく、面白い人が多い。
・目標を持って取り組む姿勢がいい。

～アンケートを集計して～

このアンケートで、フォルツァはメンバーさん・スタッフともにお互いを受け入れる環境があり、そのことが自己肯定感を高め、目標に向かって成長していく原動力になっていると感じました。

（就労支援センターフォルツァ　嶋田　陽子）

“「働く」を考える会”の報告

“「働く」を考える会”が12月７日（土）にこうあいクリニックで行われました。このイベントは、たかつき・しまもと就労支援ネットワークのワーキングチームである精神ワーキングのプロジェクトの一つとして年１回実施しています。

“「働く」を考える会”は、精神科に通院しながら就労もしくは就労を考えている方々が“働くことをみんなで考えよう”という目的で集まり、体験談発表やグループワークを行います。この取り組みは４年目で、今回23名の方が参加されました。当センター登録者であり介護施設で介護スタッフとして勤務されている田端勇人さんが発表者の１人として、上司の濱端さんと一緒に発表をしてくれました。お２人を含む発表者の方々は、体験談として病気や過去の体験、働くまでの取り組み、今の自分のこと等を語って頂けました。体験談発表の場に勤務先の上司も登壇するのは初の試みでしたが、①発表者へのエンパワメント②これから働く人達へのエールという２つの大きな要素があったと私自身感じました。グループワークでは、“何故働きたいのか？”という話題で、どの班も「お金のため」だけでなく「働くことを通して人と繋がるきっかけを作る」「働くことを通して仲間を作るため」という声が上がりました。また“悩んだ時の気持ちの切り替え方”として各自考え方の工夫等を出し合いました。私達もそうですが、「働く」ということを改めて深く考える機会はそれほど多くないと思います。「病気になったから～出来なかった」ではなく、病気になったから気付いたこと・工夫・考え方等を共有し合える場となり、仲間同士の質の高い意見交換の場となったと感じます。本会の終了後は希望者のみでカフェ・コモンズにて夕食を食べながら自由に話すトークカフェを行いました。こちらも定期開催しており、今後仲間同士の定着支援、セルフヘルプグループの一助になればいいなと感じています。こういった取り組みを通し、相談出来る仲間が増えていけば、“働き続けること”に繋がるのではないかと感じます。

最後に、お２人から感想を頂きましたので記載致します。

「発表することによって過去の自分を振り返る貴重な時間になりました。精神疾患があったとしても生きているなら人生を楽しむ気持ちが一番です。」

（田端　勇人）

「今回このような会に参加出来たこと、とてもいい経験になりました。自分自身障害の方と関わることが初めてで、障害によって苦しんでいる方が周りにたくさんいることを痛感致しました。サポート出来るようにと心がけていることが逆に支えられていると日々実感しています。社会では皆様の力を必要としています。共に笑ったり泣いたり、これからを共に歩んでいきましょう。皆様との出会いを楽しみにしています。」

（濱端　好至）

お２人を含め貴重な体験談発表をして頂いた方々には感謝を申し上げます。

（高槻市障がい者就業・生活支援センター

森川　晶平）

新企画　私のしごと

高槻市障がい者就業・生活支援センターの古園です。私がセンターの仕事で大事にしていることは、相談に来所されるご本人さん（障害者手帳をお持ちの方、又は障害者手帳は取得していないが、障害と診断された方等）が、今後企業で働くうえで安心して働くためのご相談や、企業へ障害者雇用に対してのアドバイス等をし、双方が安心して働ける（雇える）環境調整を支援していくことです。

私はセンターに入職をしたのが 2017 年で、現在３年目になります。最近、担当の登録者の方と面談を重ねていくうえで気付いたことがあります。仕事を続けていくために会社でどのような工夫、改善をしていけば長く安定して働き続けられるかの相談に傾きすぎて、本来の就職への目的（なぜ働きたいのか？）に着目出来ていなかったこと等、多々反省することがありました。ただ働くだけではなく、働くことで「何かやってみたい！」「何か買いたい！」という働く目的の相談も今後大事にし、登録者ご本人さんのモチベーションを大事にしていける相談をしていきたいと思います。

毎年２月に開催をされている『**働く障がい者の集い**』が今年は２月８日（土）に開催されます。私も実行委員として手伝いをさせて頂きます。現在働いている方、これから働くことを目指される方で、仕事のことや、働くことでの楽しみ等、他の人の意見を聞きたいと思われる方はぜひご参加頂き、働き続けるためのモチベーションを共有して頂けたらと思っております。

（高槻市障がい者就業・生活支援センター
古園　芳樹）

新企画、いかがでしたか？

就労相談部門の職員が「私のしごと」を伝えることで、その事業所も知ってもらいたく、この連載コーナーを作りました。花の会は、様々な事業所が様々な取り組みをしています。花の会以外の方にももちろんですが、改めて花の会職員にもその事業所を知ってもらい、花の会のスケールメリットを活かしたより良い連携・協働の一助になれば幸いです。言い出しっぺが僕なので、うちのスタッフからのスタートとなりました(笑)古園さんありがとうございました。次回は相談支援センタースキップの杉山さんが書いてくれます。お楽しみに。

（高槻市障がい者就業・生活支援センター
陸野　肇）

野中式事例検討に取り組んで

花の会では、メンバーさんへより良い支援を行うため、スキルアップの一手法として野中式事例検討を実施することとなり、フォルツァでも昨年９月３日の内部研修で、第１回目の事例検討を行いました。

フォルツァでは、日常的に朝礼やスタッフ会議、個別支援計画会議等、意見交換をする場面はありますが、事例検討のように一人に時間をかけて話し合いをする機会が少なく、事例検討の経験があるスタッフは半分という状態でした。今回は、高槻市障がい者就業・生活支援センター陸野所長の指導のもとで研修を行いました。

事例検討では、各スタッフから積極的に意見や提案を頂き、現状や課題、方向性等が具体的になりました。研修後のアンケートでも、「とても面白い」・「面白い」が９名、「普通」が２名という結果でした。

後日、事例検討での意見を基に面談を行い、通所日数が増える改善が見られました。あくまでも主体は当事者です。ご本人の安心と幸せを一番に、より良い支援を心掛けます。

（就労支援センターフォルツァ　古木　博子）

法人の報告

法人運営協議会からの報告

2019 年 11 月 21 日（木）に法人運営協議会が開催されました。

法人の主な事業報告（枚方くすの木園、（仮称）第５ 共働舎花の会、ラベンダー・さくらクラブ耐震・ブロック塀工事・子ども食堂）、やまなみ工房の見学報告、職員採用面接へメンバーが参加する取り組みについて経過報告、さくらクラブ・あじさいクラブの事業所評価アンケート、今後の事業評価について、等の意見交換をしました。

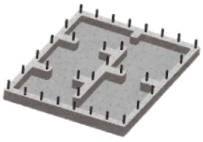
（法人運営協議会　成瀬　修）

理事会からの報告

理事会では、２０１９年１０～１２月に次の議題の検討・承認を行いました。

（10 月）

ラベンダー・さくらクラブの耐震化工事・ブロック塀工事に伴う入札参加業者・工事概要説明書と設計図書・予定価格の決定



（11 月）

ラベンダー・さくらクラブの耐震化工事に伴う入札結果、（仮称）第５共働舎花の会の設計監理契約・入札参加業者・給与の締日支払日の変更に伴う給与規程や就業規則の変更・職員への生活費の貸付制度

（12 月）

（仮称）第５共働舎花の会 入札予定価格の変更・落札業者の決定・工事請負契約の締結・福祉医療機構の借入金額の変更・建物の担保提供

（業務執行理事　成瀬　修）

人権推進・虐待防止委員会からの報告

2019 年 11 月の虐待防止委員会では、第２共働舎花の会の不適切支援改善報告、生活介護職員へのセルフチェックシートの追加アンケートの実施報告、第二四半期の事故・ひやりはっと分析、第三者委員による事業所巡回報告、2 月に開催する法人全体の虐待防止研修の企画案、来年度の虐待防止委員会の計画案が議題に挙がりました。内容が多岐に渡るので紙面の都合上、いくつかポイントを絞って報告します。

●事故報告について

職員が冗談半分で、熱い鉄板を持っていた職員をからかうようメンバーに伝え、両手で鉄板をもっていた職員が危険回避でメンバーを肘で突き、あざが出来た件について意見交換をしました。冗談半分（悪ふざけ・からかい）は不適切なのではないか、危険回避の方法が適切だったのか、これまでの虐待防止研修が活かされていないのではないか、等意見交換を行いました。

●生活介護職員への追加アンケートについて

主にモチベーションが上下する要因について聞き取りを行いました。やる気が出るのは「評価された時、メンバーの変化を感じられた時、他の人が喜んでくれた時、他の職員と想いが共有出来た時、仕事を任された時」等でした。逆にやる気がなくなる時は「自分だけが忙しいと思った時、体調不良の時、支援のことで悩む時、休みが取れず疲労が蓄積する

時、問題が起こり上司に訴えても解決なく会議ばかり続く時、メンバーの不調の連鎖や同僚のメンバー対応やその声のトーンでイライラがMAXになった時、他の職員との関係で不和な時、上司に評価されない時、合意形成が不十分で進んだ時、人の悪い所やマイナス発言を言っている人と働いている時、デスクワークが多く帰宅時間が遅くなる時」等でした。

●第三者委員の巡回報告について

第三者委員より、生活介護事業所とグループホームを巡回しメンバーと話し合いをした報告がありました。

（以下報告より）前回の巡回では、どうすればワーカーが仕事をやめてしまうことなく続けてくれるのか、どうすれば工賃が上がるのか、の２点が大きな課題でした。今回は、人間関係から生じる悩みや不満が大きな課題であると感じました。特性のあるメンバーとの関わりから生じるストレスや不満をどう和らげるのか、ワーカーに話しても受け止めてくれるワーカーもいれば、受け止めてくれないワーカーもいます。ワーカーが相手に注意してくれても、相手がほとんど注意を聞かない、等です。また、ワーカー達も、どのようにすれば、人間関係から生じるトラブルを減らせるかで困ったり悩んだりしていると感じました・・と報告を頂きました。

最後に、本記事のまとめに代えて、第三者委員からの感想を掲載します。

「虐待をなくすためには、ワーカーの労働条件の向上が必要であると感じました。根本は国の政策の貧困に問題があるのですが、花の会の中で工夫や改善の余地があるのではないかと思います。ストレスがたまらないための工夫や配慮、有給休暇の行使率の向上等、少しでも労働条件が向上するための努力が必要だと思います。また、相性が合わないメンバー同士、相性の合わないワーカーとメンバーの配置換え等、人間関係を考慮した職場や活動場所の柔軟で適切な変更も必要だと思います。」

（虐待防止委員　成瀬　修）

安全衛生委員会からの報告

安全衛生委員会では、産業医の前田医師と毎月、花の会の職員の健康状態や職場環境、衛生面、防災面に基づいた職場巡視チェックリストを実施した課題の分析等を行っております。中でも職員の健康状態においては、面談の実施を呼びかけております。健康診断の結果を基に職員の健康状態改善に向けてや、休職者が復帰する際に職場で配慮する点、復帰に向けて体調を考慮した上で時にはセーブしながら完全復帰を目指す取り組みを行っています。必要であれば、医療機関に紹介状を送り、受診してもらっています。

昨年からストレスチェックを実施しており、今年度は法人全体で職員のストレスチェックを実施しました。健康状態は職員の個人情報であり、プライベートな面もあるため、運営管理を行う職員は、その職員が勤務するに当たって不都合が生じないように配慮しています。ストレスチェックの結果は各事業所で集約・分析を行い、職場の環境改善に取り組めるように努めていきます。

（安全衛生委員会　徳野　裕季）

篠原芽久美さんと共に生きる

元花の会職員　立石　和郎

篠原さんは、2017年2月13日、まだ47歳の若さで脳梗塞によりお亡くなりになりました。もう間もなく３年になろうというのに、あまりにも突然の訃報に涙したこと、元々感性豊かで特に３０代になったぐらいから、その感性は、彼女自身の花の会の当事者活動「みんなの会」への積極的な関わり、また自身の自立の在り方の模索、「ピープルファースト」（当事者運動の全国組織）等への積極的な関わりを通して、具体化しようとしていた矢先、彼女は勿論、私も残念でなりません。そんな思いは、つい昨日のように持ち続けています。今後も彼女の生きた軌跡は、忘れることはないでしょう。また、６年前に転落事故で頭を打って、「障害者」となった私の生きていく指針ともなるでしょう

篠原さん自身の、幼少期、学生期については、彼女自身の文章がありますので、割愛します。彼女との初めての出会いは、「磐手たんぽぽの会」と「花の会」が合同で、「花ぽっぽ」を作った時。作業所の開設にあたり、ほぼ徹夜で、話し合いを重ねたのを覚えています。合同で設立し、運営は花の会が行うということで、これは花の会にとっても冒険だったのですが、より地域に打って出ようと松が丘の「山手一番街」という商店街に１９９４年４月、作業所を開設しました。花の会の給食弁当作りを中心に、磐手たんぽぽの会から引き継いだ、磐手地区への花配達等にも取り組みました。（現在も第２共働舎花の会で継続しています。）「花ぽっぽ」開設当時、篠原さんは２３歳、しっかりした明るい娘さんでした。弁当作りにも頑張って取り組み、何より花配達に関しては、当時職員だった私より大先輩。すべての配達先も覚えていて、大いに助けて頂きました。大晦日の午前中、正月用の花配達も一緒に手伝ってもらったのは、いい思い出です。

商店街での活動も、「案ずるより産むがやすし」、周りの商店の人たちの理解もあり、「商人会」にも入れてもらいました。「花ぽっぽ」では、他に雑貨の販売もしていたので、文字通り看板娘として活躍してくれた、篠原さんの力も大きかったと思います。隣の「太鼓焼き」屋さんとも仲良くなり、昼休みによく太鼓焼きをほおばりました。当時から彼女は、感性豊かでよくよく絵を描いて見せてくれました。年相応に、絵には必ず子どもを真ん中にパートナーと手をつないでいるほほえましいもので、彼女なりの漠然とした将来像だったのでしょう。絵の背景は季節によりいろいろと変わっていました。また彼女は優しい心の持ち主で、いつも周りの困っているメンバーのことは、気にしてくれていました。私も仕事柄、日常の活動の中でメンバーにきついことを言ってしまうこともあり、反省することも多いのですが、そんなある日、彼女は、メンバーがみんな帰るのを待ち、「言っていることは、合ってると思うけど、あんなきつい言い方したら〇〇君がかわいそうやわ。」としっかり指摘されたのは、ちゃんと覚えてます。また、自分の意見や言いたいこと、聞きたいことがあれば、手紙にしてよく持ってきてくれました。

これは、そんな日々のエピソードですが、この原稿を書いている後ろのテレビでもやっています。「阪神淡路大震災」の時に、私の元連れ合いは丁度、看護師を目指し、震災の一番ひどかった所の塾に通っていました。時間が早かったので連れ合いは無事でしたが、塾の友人２人が、怪我はなかったものの専門学校への試験も間近に迫る中、勉強も出来ない環境だったので、私の家に泊まってもらおうと、花の会の車を借り、迎えに行ってきました。まだ震災から１週間も経っていなかったので、周りは大変な状況で涙が止まりませんでした。帰ってきた翌日、「花ぽっぽ」でこの話をすると、篠原さんも半分涙を流しそうになりながら聞いてくれました。が、この日も残って「一つだけ、ひっかかる言葉があった。ガレキってゴミのことでしょ。その時まで、人が住んでたり、使っていたものでしょ。何か他の言い方ないかしら」。僕もその言葉は引っかかっていたので、二人で小一時間程考えましたがなかなか他の言葉は見つかりませんでした。丁度彼女が亡くなる少し前のこと。「3.11（東日本大震災）を心に刻んで」と言うブックレットに同じ話があり、「ガレキ」ではなく「被災物」だ、というくだりがありました。彼女に伝えねば、と思いながらとうとう伝えられませんでした。心の中の彼女に伝えます。

元々感性の豊かだった彼女。でも、感性だけでは、あんな風に具体的に自身の自立と制度のずれ（グループホームだけが地域生活ではない）に言及したり、仲間への強力で優しい当事者運動への呼びかけをする。また、自ら、ピープルファースト等々の当事者運動に出かけて、「障害者」を取り巻く状況や事件を自身の知識にする。彼女なりの慎重さを兼ね備えながら、絵に描いたように感性を磨き、成長していく姿を見ていると、すがすがしい気持ちと同時に尊敬の念を抱きます。それは、彼女が絶え間なく感性を磨く努力、外に目をやる努力を続けたからこそ成しえたものです。私は、死ぬまで篠原さんの感性・志を心に秘めて生きていきたいと思っています。

最後になりましたが、花の会職員に一言。

篠原さんと共に生きよ！「健常者」としての当事者性をしっかり背負い、感性を磨き、差別社会に対して具体的にかつ早急に、運動・活動を開始せよ！

生意気な言い方になり、申し訳ありません。心の中の篠原芽久美さんと共に生きようとする者の思いです。

花の会の報告

新年のご挨拶　～各会より～

新年明けましておめでとう御座います。

会員の皆様には日頃より花の会活動にご理解とご協力を賜り、有り難う御座います。

さて、花の会では、昨年３つの新たな取り組みがありました。会員数増加により今後、総会は高槻現代劇場レセプションルーム（４００人収容）では手狭になることから、試行的に６００人収容出来る中ホールで開催、交流・祝賀会を展示室（２階・２００人収容）・レセプションルーム（３階）で開催する分割方式とし、レセプションルームと展示室をインターネットで中継する試みを実施。バザー協力で売場担当区割り変更や一部売場でいつも後片付けが遅れることから、後片付けの開始時間変更等を提案し実行。家族会の懇親会は、今まで食事会場に参加者が一同に会し開催してきましたが、参加者間のコミュニケーションが取りづらい、参加人数も減少傾向にあることから、家族会と次世代の参画促進チームの共催で多くの人に参加して頂きたい、また、班の親睦が深まることを期待して今回は班毎に開催することを提案実施。それぞれの新しい取り組みについては試行的な意味合いがあり、課題の洗い出しが出来たので良かったと思います。既に改善を要することについては、対応策の検討に入っています。

今年、社会福祉法人 花の会は、「（仮称）第５共働舎花の会」（正式名称：はなみずき）の開所、「くすの木園」（枚方市）の運営引き継ぎや「山の家」の整備等、益々組織の大規模化が進むと共に、当事者・家族の高齢化が着実に進んでいます。

直近の課題として一番に思い浮かぶのが、職員の確保・育成ですが、現在の社会情勢では時間がかかるものと懸念されるところです。組織が大規模化すればこれから様々な課題が出てくると思われ、迅速かつ的確な対応が求められます。

これら諸問題に対応するには、花の会活動の活性化を図り、活発な活動集団にする必要があります。それには、行動力のある若い方々の協力が欠かせません。当事者の為に皆様のお力をお貸し下さい。一緒に当事者の為に頑張りましょう。

花の会全体が活発な活動集団になることを願い、私の新年を迎えてのご挨拶とします。

（花の会代表　上田　充孝）

花の会福祉マインドさらに

新年おめでとうございます。いつも後援会活動に温かいご支援とご協力を頂き深く感謝致します。今年もまた、微力ながら花の会を内から下から支えるため、後援会の活動を進めていきます。そして花の会がさらに大きく発展し、「花の会ブランド」と福祉マインドがこの地に深く根付いていくことを願っております。

花の会にとっては初めての市外施設である枚方の「くすの木園」も、職員間交流が始まり、その発足も確実なものになりました。また第５共働舎花の会（仮称「はなみずき」）も開所準備が順調に進んでいます。地域の方々の賛同と協力を得ながら、地域福祉の進展に花の会が大きな役割を果たしていることをメンバーと職員の皆様方と共に喜びあいたいと思います。

手作業で進めてきた園庭の整備活動が実を結び、すっきりしたきれいな庭になりました。また昨年は阿武山の地震計の見学会や恒例の「庖丁砥ぎ教室」等で会員同士の親睦を深めました。今年もまた後援会活動の大きな目的である法人花の会諸施設への財政支援にも取り組みます。

障害者への総合支援法による様々な可能性が広がってはいますが、制度の不備、社会の偏見と生活の困窮等、障害者の権利保障の道にはゴールがありません。

今年も障害者福祉の世界に生き甲斐を感じ、献身的にメンバーに関わっておられる職員の皆様方と相呼応しながら、花の会の発展のために尽力するつもりです。

（花の会後援会会長　堀田　和喜）

新年あけまして　おめでとうございます。

平素は、家族会の活動にご参加・ご協力を賜り、心からお礼申し上げます。

家族会会員様方の高齢化等様々な課題がありますが、メンバーが安心出来る快適な環境作りに貢献出来るよう、皆様方が活動に参加しやすくなるように努めていきたいと思っております。

2020年が花の会にとって素晴らしい１年になりますようにお祈り申し上げます。

（家族会会長　早野　素子）

第15回親族後見をすすめる会研修会の報告

2019年１１月１６日（土）、第１５回 親族後見をすすめる会研修会がありました。

成年後見制度を利用するための「申請」は、難しいのでしょうか。弁護士、司法書士等、専門職の方しか出来ないのでしょうか。決してそうではありません。確かにいくつかの書類を作成、準備をする必要はありますが、事前に何が必要か、どんな準備をすればいいのか・・知ると、「なぁんだ。意外と簡単じゃないか」と感じる方も多くおられます。今回も講師を中心に書類、手続き、準備物・・・について実体験を交えながら説明。そして最近の後見制度をめぐる動きも含めて、参加者の方と一緒に確認しながら進めました。カタイ、ムズカシイ話ではなく、「具体的な話（実体験）」なので、参加頂いた方々からは、それぞれイメージが持てたという声を頂いています。

次回の開催日程は２月１日（土）に決まっています。「将来」を考える上で、必要となる（かもしれない）制度等について、一緒に考えていきたいと思っています。

（事務局　平田　昌史）

第167回 日中活動定例会の報告

2019年12月15日（日）10：00-12：00、第167回花の会定例会が共働舎花の会1Fホールで行われました。今回は、活動報告や各部会（集会の場所と方法検討チーム、生産活動への協力チーム、次世代の参画促進チーム、親族後見をすすめる会）、日中活動事業、地域生活支援事業からの近況報告のあと、「花の会ノート」の勉強会が行われました。

「花の会ノート」は、2011年12月に作成し、花の会会員に配布された花の会版エンディングノートです。親亡き後にメンバーが困らないようにとの思いから、その当時「将来構想検討委員会」が中心になって編集したものです。内容としては、本人の基本情報（家族構成や健康状態、本人の特性等）からはじまり、サービスの利用状況、財産と相続に関すること、または「親なき後」の親の願い等、多岐に渡ります。作成し、配布されてからはかなりの年月は経つのですが、実際に記入されているご家族が少ないとのことから、昨年から花の会の中期計画部会（旧日常生活支援検討部会）のメンバーが中心となって勉強会を年に１回開催しています。今年は２チームに分かれて、項目ごとにそれぞれの記入の仕方等を確認していく勉強会となりました。

昨年と同様、親の思いを改めて考えてみた際に、なかなか筆が進みにくい項目や家族で改めて相談しないと記入しにくい項目等、難しい一面も多くあったようです。それでも、同じ思いを持った花の会の会員同士で相談しながら、改めて「親亡き後」を考える良いきっかけになったようです。

高齢期を迎えるメンバー、家族の課題に関しては、予てから花の会の今後の課題として取り上げています。１月１８日(土)の花の会学習会でも「知的障害者の高齢期支援」をテーマに掲げました。花の会ノート記入の勉強会は継続して年に１回開催していく予定です。今回参加出来なかったご家族も是非花の会ノートを一度ご確認頂き、将来のことを一緒に考えていければと思います。

（花の会事務長　牛嶌　亮）

活　動　報　告

	花の会			法人			日中活動		
11月	16	土	第15回親族後見をすすめる会勉強会	1	金	事務局会議	5	火	メンバー給料日
				11	月	理事会	10	日	花の会バザー
	18	月	集会の場所と方法検討チーム(第14回)	14	木	就職説明会	11	月	代休
				15	金	事務調整会議	20	水	内部研修
	28	木	親族後見をすすめる会役員会（第27回）	15	金	事業所会議	26	火	子ども食堂
				21	木	運営協議会	29・30	金・土	ピープルファースト全国大会
	30	土	次世代の参画促進チーム(第16回)	22	金	虐待防止委員会			
12月	2	月	花の会役員会	2	月	理事会（臨時）	3	火	避難訓練
				6	金	事務局会議	5	木	メンバー給料日
	15	日	第167回定例会	7	土	主任副主任研修	8	日	犬猫譲渡会
				8	日	理事会	18	水	内部研修
				17	火	事務調整会議	21	土	クリスマス会
				20	金	事業所会議	28	土	大掃除・忘年会
							10～18		＊メンバー健康診断
							29～		冬休み
`20年１月	17	金	職員親睦会	10	金	事務局会議	～3	金	冬休み
	18	土	学習会「知的障害者の高齢期支援」高槻現代劇場305号室	16	木	事務調整会議	6	月	メンバー給料日
				17	金	職員親睦会	29	水	内部研修
				18	土	事務職員研修			
				19	日	理事会・評議員会			
				24	金	財務研修			
				24	金	事業所会議			
				25	土	施設長研修			

	地域生活			就労・相談			児童支援		
11月	1	金	運営会議	6	水	運営会議	12	火	職員会議・研修
	22	金	内部研修	7	木	サポステ監査			
	27	水	定例会	12	火	主担会議			
				16	土	ｻﾎﾟｽﾃ講演会			
				21	木	就労ネット			
				26	火	ﾌｫﾙﾂｧ見学会			
12月	6	金	運営会議	4	水	運営会議	2～13		さくらクラブ(ラベンダー)耐震工事ほか
	13	金	ＧＨ全職員会議	10	火	主担会議			
	16	月	事例検討会	27	金	相談あじさい身近な福祉相談	10	火	職員会議・研修
	20	金	内部研修				14	土	さくらクラブ合同懇談会（定例会）
	21	土	アイ・サポート研修				21	土	あじさいクラブ、あさがおクラブ　合同懇談会（定例会）
	28～		冬休み				28～1/5		冬休み
`20年１月	～5		冬休み	6	月	はいびすかす人権研修	14	火	職員会議・研修
	10	金	運営会議	7	火	運営会議	16	木	事業所連絡会児童部会会議
	23	木	アンガ―マネジメント研修	14	火	主担会議			
	24	金	内部研修	16	木	第3共働舎実地指導			
				24	金	ｻﾎﾟｽﾃ講演会			

２０００年１２月１２日第三種郵便物承認　毎月（１・２・３・４・５・６・７・８の日）発行
発行人　関西障害者定期刊行物協会　大阪市天王寺区真田山町２・２　東興ビル４階　定価１００円

「公益信託　近藤きよ子記念福祉基金」助成金により取得した印刷機を使用して印刷された出版物です